

加古川専売所通信 1月号

当店スタッフがこれぞ神戸新聞ならでは!と思った連載記事や、繰り返し読んで欲しいオススメ記事などを改めてご紹介☆「こんなニュースあったあった!」「ハューそんな事あったんか!」と、**神戸新聞NEXT**のピックアップ 気楽にお読みくださいませ♪



2019年12月8日 北条鉄道「サンタ列車」



加古川市と神戸市を結ぶ「サンタ列車」の運行が始まった。北播磨や神戸、加古川市などから集まった親子連れらが、サンタコースやトナカイの格好をした学生ボランティアと共に一足早いクリスマスを満喫した。

2019年12月20日 五角形だから「ごうかく」...

播磨農業高校と小野工場高校の3年生が協力して五角形の「合格かぼちゃ」を作った。同校機械科の生徒が作った透明の型枠を使い、播磨農業高校の生徒が育てて11月上旬に収穫。来年はさらに大きくしようと、小野市王子町のコミセンおで入試シーズンの2月下旬まで展示する。

2019年12月28日 運気上がる新年に

正月の食卓を飾る緑豆物「ちりみ鯛」が、加古川市公設地方卸売市場「水産物卸売会館」加古川水産」で丁寧に焼き上げられている。専用のかまどにおこした炭火で2時間かけてじっくりあぶり、作業場には香ばしい匂いが漂う。

2019年12月18日 市役所前にステージ 聖火リレー加古川市ルート



2020年東京オリンピックの聖火リレーの詳細ルートが17日発表され、加古川市では県加古川総合庁舎から市役所を経由し、鶴林寺までの2.6kmを12の小区間で走りつなぐコースに決まった。市役所前では、聖火の到着・通過を祝う「ミニセレブレーション会場」が設けられ、市民に聖火が披露される。東播関係のランナー5人も選出された。聖火が兵庫県内を走る2日間のうち、加古川市は1日目の5月24日。豊岡市を出発した聖火が小野市から加古川市に入り、その日の到着地の姫路市につなぐ。

県加古川総合庁舎を出発し、国道2号などを走って市役所へ。県によると、市役所敷地内を1周し、市役所前に設けられたステージ上で聖火が披露される予定。その後、南進し、鶴林寺へ。仁王門をくぐり、本堂まで聖火が運ばれる。鶴林寺では、聖火を迎えるため、仁王門から本堂へ続く石畳脇の植栽整備や、本堂の布飾りの新調を計画。茂渡俊慶住職(58)は「もう次はいつ日本でオリンピックがあるかわからない。市民に喜ばれるよう、協力は惜しまない」と話した。

聖火ランナーが意気込み

聖火ランナーに選出された東播関係者は5人。播磨町の関西大2年藤川千尋さん(20)と、高砂市の会社社長佐野正人さん(57)が意気込みを語った。

藤川千尋さん、播磨町で生まれ育った藤川さん。夢は、新聞記者。「新聞の父」と呼ばれるジョセフ・ヒコ(1837~97年)が、わが町の出身であることを知り、ますますその思いを募らせる。東播農業高校(稲美町)在学中、放送部に所属。ラジオのドキュメンタリー作品などを手掛け、取材し多くの人に伝えるメディアの魅力を感じた。大学では、社会学部でメディア学を専攻。今夏の授業で、日本の近代化を目指し国内初の民間日本語新聞を作ったジョセフ・ヒコの生涯を知り、驚かされた。「こんな、すごい人が播磨町にいたなんて」同じ頃、聖火ランナーを募集していることを知った。だめでもともと、応募をしたところ、高い合格率を勝ち抜いて選ばれた。藤川さんは「選ばれた実感がなかなか湧かないけれど、ジョセフ・ヒコを生んだ播磨町を精いっぱいアピールしたい」と晴れやかな表情で語った。

佐野正人さん、「地域社会を盛り上げ、未来の世代につなぐたい」と佐野さんが語る。南あわじ市出身。地元で電機メーカーに就職し、2007年転職で高砂に移住した。その後再び鳥居の職場に移り、子会社社長に。若手社員の育成に力を入れた。40代までは夢中で仕事に打ち込んできたが、50代になって視野が広がり、地域社会に目を向けるようになった。人口流出や財政悪化といった課題を抱える自治体が多い中、元気な地域には、人を引っ張る意欲的な人がいると気付いた。「活性化には、その土地の魅力を発掘して生かせる人材が必要」。自ら育てた社員にも、地域で貢献してほしいと願う。2年前から水泳教室に通い、体力には自信がある。「職場の応援を前に、精いっぱい走ると笑顔を見せた。

加古川警戒情報

2019年12月04日 飲酒運転摘発 県内ワースト

加古川署内(加古川市、稲美、播磨町)の飲酒運転の摘発は1~10月で72件に達し、県内の警察署で最も多い。11月も目立っており、5年連続県内ワーストとなる可能性もある。師走に入り、重大事故も懸念されており、同署は3日、特別警戒の発動式を開いて飲酒運転撲滅を呼び掛けた。

同署によると、逮捕・交通切符(赤切符)の交付といった摘発は2015年からの4年間で、100~120件程度で推移。警察署別で比較すると、4年連続で最多だった。多い年は2位の警察署と50件の差がついていた。

今年10月末までに摘発された72件のうち7割近くが交通事故が原因で発覚。10月下旬には、加古川市

の会社員の男(34)が、播磨町のスナックや居酒屋で飲酒後に運転し、民家の庭に突っ込む事故も発生した。住人にけがはなかったが、男の呼気からは基準値の3倍を超えるアルコールが検出され、酒気帯び運転の疑いで逮捕された。同署交通第1課の広地正行課長(53)は「飲酒運転がどれほど危険か、想像力を持って」と注意を促す。

正常な運転が困難な状態、制御が難しい高速走行などで人を死傷させた場合に適用される「危険運転致死傷罪」では、最長20年の懲役が課される。【後略】



飲んだら乗るな! 乗るなら飲むな! 飲酒運転絶対ダメ!!

このおもしろい情報掲載板
神戸新聞社 播磨製作センター完成記念

読者紹介 キャンペーン 実施中!

ご愛読者のみなさまへ 実施期間▷2020年3月末受付まで
ご家族・ご友人をご紹介ください!

あなたの周りに神戸新聞購読をお考えの方はいませんか?
紹介して下さったあなたへ素敵な商品を差し上げます!

- 1. 読者プレゼント
- 2. 読者専用グッズ
- 3. 読者専用サービス
- 4. 読者専用イベント

当店もしくはお近くの神戸新聞販売店へご連絡ください。

キーワード検索
Twitter始めよう...

フォロー

すたっふのつぶやき
@kakogawasenbaisho

あけましておめでとうございます
令和最初のお正月いかがお過ごし
でしたか? ゆっくりできた方も、
忙しく働いていた方も、少し食べ
過ぎた方も(笑)、2020年が平和で
素晴らしい一年となりますように
!!

1 4 14

株式会社 加古川専売所 加古川市米田町平津46-18 mail:kakogawa.senbaisho@gmail.com
TEL079-432-6888 FAX079-432-7991 HPはここから☆

